

## 1. はじめに・先行研究

[先行研究] とりたての類型論である井戸 (2021) は、野田 (編) (2019a) 所載の 15 言語をデータとし、一部の言語において、主語が限定<sup>1</sup>でとりたてられた文では、焦点に関わる統語的制約が働き、分裂文への交替や移動が起こると指摘している (井戸 2021: 112–118). このような文構造の交替が一部の言語で起こる理由について、井戸 (2021: 117–118) は主語がなんらかの理由 (当該言語では主語が主題として機能する, など) で焦点になることができないためであるという説を示している (以降「主語焦点回避 (説)」と呼ぶ). ただし井戸 (2021: 118) は主語焦点回避説が限定以外のとりたて表現に適用できるものではないと指摘する<sup>2</sup>. 井戸 (2021) によれば限定だけでなく極端や類似でも文構造の交替が起こるが、限定と極端・類似では取る文構造が異なる上、類似での交替は義務的でないという.

[問題点と調査] 井戸 (2021) の説明は通言語的な現象の説明としては不十分な点があり、証拠となる言語数も決して多いとは言えない. 説明の具体的な問題点として、[問題点 1] 言語群の言語一覧や共通特徴が示されていないこと (文構造の交替が起こる言語と起こらない言語、主語焦点回避が起こる言語と起こらない言語)、[問題点 2] 限定・極端で通言語的にとりうる文構造がどの程度違うのか示されていないこと、が挙げられる. そこで本発表では『語研論集』所載の 49 言語の限定と極端のとりたて表現文をデータとして以下の調査・分析を行う: [調査 1] 文構造が交替する言語群・しない言語群それぞれになんらかの共通特徴はないか、この点について特に語順と格の有無の観点から調査・分析する. [調査 2] 限定と極端で通言語的にどのような統語的振る舞いの違いがあるか分析する.

[主張] 調査の結果、本発表は以下を指摘・主張する: [主 1] 語順・格の有無の 2 つは文構造の交替の有無と関連した. 本発表ではこの関連を根拠に主語焦点回避説を支持するが、これにさらに補足説明を加える. [主 2] 限定では主に分裂文が見られたが、極端では分裂文は全く見られず移動が少し見られる. さらに、[主 3] 分裂文を用いる言語は分裂文をもっぱら限定にのみ用いる一方、移動を用いる言語はたいてい移動を限定にも極端にも用いる. [主 4] 通言語的な限定と極端の振る舞いの違い (= [主 2]), 分裂文と移動の分布の違い (= [主 3]), を統一的に説明する 2 種類の仮説を提案する. 最後に、例外的な言語に対して可能な限り共通特徴を指摘しつつ、今後の課題を示す.

なお本発表中の例文、例文のグロス、日本語訳は引用元にならう.

<sup>1</sup> 『語研論集』や井戸 (2021) では野田 (2015, 2019b) の枠組みに基づいて、6 つのとりたて意味を区別する.

表 1: 日本語のとりたて表現の意味の体系

意味	日本語の例	意味	日本語の例
限定	「だけ」 (限定), 「しか」 (限定) など	反限定	「でも」 (例示), 「も」 (柔らげ) など
極端	「まで」 (意外), 「さえ」 (意外) など	反極端	「なんて」 (低評価), 「ぐらい」 (最低限) など
類似	「も」 (類似)	反類似	「は」 (対比)

(野田 2015)

限定、極端、類似の意味は以下の手順で判別できる (野田 2019b: 10 [発表者要約] による).

- 指示対象がとりたてられた名詞以外の他のものを含まない → 限定
- 他のものを含む: 他のものに序列がある → 極端 vs 他のものに序列がない → 類似

<sup>2</sup> なお井戸 (2021) は主語焦点回避説の限界を他にも指摘している: とりたて表現と文の焦点が一致する言語とそうでない言語があるといい、そのため主語焦点回避説ですべての言語を統一的に説明できるわけではないという.

## 2. 調査

### 2.1. 調査対象例文・言語・調査方法

本発表では『語研論集』の特集「情報標示の諸要素」の例文 (3, 9) をとりあげる (以降それぞれの例文を【限定】、【極端】として言及する)。この2例はどちらも主語をとりたてるものである<sup>3</sup>。

【限定】：あの人だけ、時間通りに来た。

【極端】：小さい子供まで、その仕事の手伝いをさせられた。

対象言語は語研論集第22号から第26号の当該特集言語 (調査元例文の日本語を含む) のうちエスペラントを除いた49言語である。

調査方法は次の通りである。各言語の調査対象例文について文構造を観察し、元の主語名詞句が基本語順通りの主語位置にあれば「通常」、述部にあれば「分裂文」<sup>4</sup>、述部ではないが基本語順から逸脱して文頭や文末にあればそれぞれ「左方移動」、「右方移動」、として分類した。この文構造の分類と、基本語順、格の有無、【限定】/【極端】、を変数として言語をクロス集計した。

なお基本語順は Dryer (2013a) [WALS: 83A] と Dryer (2013b) [WALS: 81A], 格の有無は Lesage et al. (2023) [Grambank: GB070] および補足的に Iggesen (2013) [WALS: 49A] を参照した。データのない言語は語研論集の記述とデータをもとに発表者が適宜判断した。格の有無について、No morphological case-marking を「格ナシ」、格が2つ以上あるものを「格アリ」と二項分類した。なおハンガリー語の基本語順を Dryer (2013a) は VO, Dryer (2013b) は SOV/SVO としており、本発表では SVO とした。

移動について、語順に現れない移動、たとえば基本語順で文頭に S を持つ言語の左方移動、は通常とミスカウントしている可能性がある。考察はこの可能性を考慮の上進める。基本語順・格の有無と移動の相関については考察しない。今後、目的語をとりたてる例文などを用いて検討する必要がある。

### 2.2. 調査結果

下記の表2に調査結果を示す (表2; { }内は該当言語数)。VO 語順かつ格ナシの言語群では、18言語中10言語が、【限定】で分裂文を (1)、【極端】で通常の文構造を取り (2)、一方で VO 語順の言語かつ格アリの言語群では7言語中4言語が、【限定】・【極端】両方で、通常の文構造を取った (3-4)。OV 語順かつ格ナシの言語はデータ中に存在しなかった。OV 語順かつ格アリの言語群では23言語すべて通常の文構造のみが見られた (5-6)。以上に当てはまらない例は3節で詳しく取り上げる。

表2: 基本語順・格の有無に基づく言語群が限定・極端のとりたて表現文でとる文構造の種類と数

	VO 語順, 格ナシ	VO 語順, 格アリ	OV 語順, 格ナシ	OV 語順, 格アリ
【限定】	分裂文{10}, 通常{7}, 左方移動{1}	通常{4}, 左方移動{1}, 右方移動{1}, 分裂文{1}	データなし	通常{23}
【極端】	通常{17}, 左方移動{1}	通常{5}, 左方移動{2}, 右方移動{1}	データなし	通常{23}

各言語の語順、格、文構造は下記の通りである ([ ]内に、【限定】、【極端】それぞれでとる文構造を示す)。なお SVO, SOV 語順でないものには言語名の後ろに語順を()で付した。

<sup>3</sup> ただし【極端】では使役に非人称的な主語を用い、「小さい子供まで」相当の句を目的語とする言語もあった (ハンガリー語、ナーナイ語、エウエン語、モンゴル語、朝鮮語、クメール語) が、おおむね論旨には影響しないと考える。

<sup>4</sup> 分裂文と疑似分裂文、指定文と措定文、の違いは本発表では無視し、すべて分裂文として扱った。

VO 語順, 格ナシの言語 (18 言語): [分裂文, 通常] イタリア語, フランス語, エジプトアラビア語, タイ語, ラオ語, クメール語, ヴェトナム語, 漢語諸暨方言, マレーシア語, インドネシア語; [通常, 通常] 英語, ポルトガル語, スペイン語, ブルガリア語, パピアメント語, 中国語, 漢語平江方言; [左方移動, 左方移動] チナンテク語オスマシン方言(VSO);

VO 語順, 格アリの言語 (7 言語): [通常, 通常] フィンランド語, ハンガリー語, ポーランド語, ロシア語; [左方移動, 左方移動] トラパネク語(VSO); [右方移動, 右方移動] チェコ語; [分裂文, 左方移動] タガログ語(VSO);

OV 語順, 格アリの言語 (23 言語): [通常, 通常] グイ語, ジョージア語, トルコ語, トルクメン語, キルギス語, タタール語, ウズベク語, ウイグル語, サハ語, トゥバ語, モンゴル語ハルハ方言, モンゴル語オラド方言, ダグール語, エウエン語, ナーナイ語, ペルシア語, ヒンディー語, ウルドゥー語, ベンガル語, ビルマ語, 朝鮮語, 日本語, 日本語大阪方言;

この他に SVO/SOV, 格アリ, [通常, 左方移動] の言語が 1 例 (ドイツ語) あった.

- (1) エジプトアラビア語 (VO 語順(SVO), 格ナシ), 【限定】, 分裂文 (長渡 2017: 116)

*da f-faxʃe l-wahi:de lli-ge fi-l-maʃa:d.*

that the-person the-only the-came.3SG in-the-appointed.time

「あの人だけ, 時間通りに来た。」(発表者注: lit. 彼が時間通りに来た唯一の人だった)

- (2) エジプトアラビア語 (VO 語順(SVO), 格ナシ), 【極端】, 通常 (長渡 2017: 117)

*hatta l-ʔatfa:lʰ ʃ-ʃoʔajjari:n bejʃallu:-hom jisaʃdu:-hom fi-f-foʔlʰ-da.*

even the-babies the-little.PL CONT-let.3PL-them help.3PL-them in-the-job-this

「小さい子供まで, その仕事の手伝いをさせられた。」

- (3) フィンランド語 (VO 語順(SVO), 格アリ), 【限定】, 通常 (坂田 2017: 94)

*Ainoastaan tuo ihminen tul-i ajoissa.*

merely that:NOM human:NOM come-PAST.3SG on.time

「あの人だけ, 時間通りに来た。」

- (4) フィンランド語 (VO 語順(SVO), 格アリ), 【極端】, 通常 (坂田 2017: 96)

*Jopa piene-t lapse-t joutu-i-vat autta-ma-an siinä työ-ssä.*

even small:NOM-PL child:NOM-PL fall.into-PAST-3PL help-MAINF-ILL it:INE work-INE

「小さい子供まで, その仕事の手伝いをさせられた。」

- (5) 日本語 (OV 語順(SOV), 格アリ), 【限定】, 通常 (風間 2017: 26)

「あの人だけ, 時間通りに来た。」

- (6) 日本語 (OV 語順(SOV), 格アリ), 【極端】, 通常 (風間 2017: 26)

「小さい子供まで, その仕事の手伝いをさせられた。」

### 3. 考察・今後の課題

以下に 4 つの点を今後の課題を含めて主張する ([主 1-4]). その後, その他の今後の課題を述べる.

[主 1] 語順・格の有無の 2 つは文構造の交替の有無と関連した (cf. 2.2 節). これに類似する相関を報告した風間 (2016: 24) の文焦点についての類型的考察によれば, 孤立語的な (~格ナシの) SVO 語順の言語では V の前の位置 (~文頭) が主題位置であるため, (V の前の要素が主題でない) 文焦点で存在文などの特別な構文が出るという (カッコ内は発表者による補足). なおこの説明は主題と焦点が相補的であるとした場合のみ有効であるが, 本発表では Bresnan and Mchombo (1987: 758) にならい主題

と焦点は相補的だと考える。本発表は風間 (2016) を参考に SVO 語順かつ格ナシの言語で分裂文が好まれる仕組みを以下のように説明する: 「これらの言語ではなんらかの理由で文頭が主題として解釈される傾向にあり, かつ限定が焦点を持つ。主題と焦点は相補的なため, 限定主語は文頭に出にくい。さらに主語を文頭以外に置く方略として移動や韻律的標示ではなく分裂文がなんらかの理由で最適である。よって限定主語文で分裂文が現れやすい。」。以上の説明は 1 節で見た井戸 (2021) の主語焦点回避説をやや補足しつつ支持するが, 依然不明な部分 (下線部) があり今後の研究が必要である。

[主 2] 1 節で見た井戸 (2021) の指摘の通り, 限定と極端ではとりうる文構造が異なっている。その具体的な構造や言語数は, 2.2 節に示した通りである。

[主 3] 分裂文を用いる言語は分裂文をもつばら【限定】にのみ用いる (前ページ例文 1-2)。一方, 移動を用いる言語はほとんどが移動を【限定】にも【極端】にも用いる (7-10)。

- (7) トラパネク語 (VO 語順(VSO), 格アリ), 【限定】, 左方移動 (内原・Tiburcio 2022: 889)

*mbòó ikaa bapaá ni?kàà*

*mbòó tkāā bāpā-: ni-?kà-:*

only 3SG before-LOC CMP:3SG-come:3SG-ITER

「あの人だけ、時間通りに来た。」

- (8) トラパネク語 (VO 語順(VSO), 格アリ), 【極端】, 左方移動 (内原・Tiburcio 2022: 890)

*ahndu èhìin síhkiin niyàmbáá náa nyahun? rú?kwe*

*āhndū èh(i)n-ī ī síhk(ā)-īīn ni<sup>l</sup>-yambáá náā yahun? rú?kwē*

until boy:PL-3SG.B small:PL-3PL.C CMP:3PL-collaborate LOC work DEM.MED.INAN

「小さい子供まで、その仕事の手伝いをさせられた。」

- (9) チェコ語 (VO 語順(SVO), 格アリ), 【限定】, 右方移動 (浅岡 2017: 72)

*Na čas přišel jenom on.*

on time come.PFV-PST.3SG.M only 3SG.NOM

「あの人だけ、時間通りに来た。」

- (10) チェコ語 (VO 語順(SVO), 格アリ), 【極端】, 右方移動 (浅岡 2017: 72)

*S tou prac-í pomáha-l-y i mal-é děti.*

with that.SG.INS work-SG.INS help.IPFV-PST-3PL.F evensmall-PL.NOM child.PL.NOM

「小さい子供まで、その仕事の手伝いをさせられた。」

[主 4] 通言語的な限定と極端の振る舞いの違い (= [主 2]), 分裂文と移動の分布の違い (= [主 3]), を説明する 2 種類の仮説を提案する。[仮説 1] は意味に, [仮説 2] は位置に主原因を求めるものである。両説は両立可能である。これらの仮説は典型的なパターンの論理的説明であり, 今後個々の言語での経験的な検証を要する。まずどちらの仮説も, 言語ごとに分裂文, 移動, 通常のどれをより好むかという点についての構造的な選好が決まっていると考える。最終的な構造は, まず通常の語順に加え以下に示す仕組みで他の構造が出力候補になり, 出力候補の中からその言語の構造的な選好と主語焦点回避 (= [主 1]) から見て最適な構造が現れると考える。

[仮説 1] 通言語的なプロトタイプとして, 限定は [+対比, +焦点], 極端は [+対比] の意味素性を持つとし, 分裂文は [+焦点] によって, 移動は [+対比] によって, 出力候補になると考える。なお Titov (2019) にならひ対比性は主題や焦点とは別個の素性と考える。Titov (2020: 1) によれば英語やロシア語を含む多くの言語で, 非対比の新情報の焦点は移動せず, 対比焦点は文の周縁部に出るといい, この仮説を補強する。ただし今後各言語で非対比焦点, 対比焦点, 対比主題がどのような統語的振る舞

いを持つのか確認する必要がある。

【仮説 2】 周縁部に主題位置（外側）と焦点位置（内側）の 2 つを立てる (e.g. “[Yesterday]<sub>TOP</sub>, [what did]<sub>FOC</sub> Robin do?”). なお Van Valin and LaPolla (1997) も同様の立場をとる。限定は焦点化、極端は主題化を受けるとする。焦点化は分裂文と移動、主題化は移動を出力候補とするが、このように出力候補に違いがあるのは焦点位置と主題位置の構造上の違いによると考える。この仮説では移動に焦点化と主題化の 2 種類があると考えられるので、韻律的な違いがあるなど、限定と極端で移動の方略の詳細が異なっている点について説明がつくという利点がある。

【今後の課題】 例外的な言語に対して可能な限り共通特徴を指摘しつつ今後の課題を示す。

ポルトガル語、スペイン語、ブルガリア語、パピアメント語、中国語、漢語平江方言は VO 語順かつ格アリの言語だが【限定】でも【極端】でも通常の文構造をとった (11–12)。

(11) スペイン語 (VO 語順(SVO), 格ナシ), 【限定】, 通常 (喜多田・堀江 2022: 136)

*Solo él lleg-ó a tiempo.*

only PN.NOM.M.3SG arrive-IND.PST.3SG on time

「あの人だけ、時間通りに来た。」

(12) スペイン語 (VO 語順(SVO), 格ナシ), 【極端】, 通常 (喜多田・堀江 2022: 138)

*Hasta los niñ-o-s pequeñ-o-s se v-ieron oblig-ad-o-s*

even ART.DEF.M.PL child-M.PL small-M-PL PN.REFL.3 see-IND.PST.3PL force-PP-M-PL

*a ayudar en es-e trabajo.*

to help.INF in that.DEM-M.SG work

「小さい子供たちまで全員がその仕事の手伝いをしなければならなかった。」

ポルトガル語とスペイン語は系統・地理的に近いが、どのような共有特徴が文構造に効いているかは不明である。ブルガリア語はマケドニア語と並んでバルカン地域における言語接触によって格を失ったスラブ語であり (Wahlström 2015), 格アリであった時代の性質を残しているために文構造の交替が必要でない可能性がある。今後他のバルカン地域の言語のデータも含めた調査が必要である。パピアメント語はクレオール言語であり、クレオール言語の特徴である可能性がある。他のクレオール言語も含めた調査が必要である。中国語と漢語平江方言はとりたてて表現「只有」が存在動詞「有」を含んでおり、主語名詞句が「有」の直後に置かれることで主題位置から外れる (井戸 2021: 112–113 に同様の説明がある)。つまり分裂文や移動とは異なる方略で主語焦点回避が働いていると考えられる。

【主 3】 の例外としてドイツ語とタガログ語では移動が【極端】でのみ見られる (13–16)。SVO/SOV のドイツ語 (13) では主語が左方移動しても通常の語順を取る。今後韻律などをもとに左方移動の有無を確かめる必要がある。タガログ語 (15) は分裂文>>移動>>通常の構造的選好を持つため【限定】で分裂文を用いるが、移動を用いる他の言語は移動>>分裂文、通常の構造的選好を持つと考える。

(13) ドイツ語 (SVO/SOV 語順, 格アリ), 【限定】, 通常 (成田 2018: 281)

*Nur der ist pünktlich gekommen.*

only he.NOM is.AUX punctually come.PP

「あの人だけ、時間通りに来た。」

(14) ドイツ語 (SVO/SOV 語順, 格アリ) 【極端】, 左方移動 (成田 2018: 282)

*Bis zu klein-en Kind-er-n muss-te-n all-e Bei der Arbeit helfen.*

up to small-PL.DAT child-PL-DAT must-PST-PL all-PL.NOM With the.DAT work.DAT help-INF

「小さい子供たちまで全員がその仕事の手伝いをしなければならなかった。」

(15) タガログ語 (VO 語順(VSO), 格ナシ), 【限定】, 分裂文 (細羽 2020: 313)

*Siya lang yung d<um>ating sa oras.*

3SG.NOM only NOM arrive<AF.PFV> LOC time

「あの人だけ, 時間通りに来た」(発表者注: lit. 時間通りに来たのは彼だけだ)

(16) タガログ語 (VO 語順(VSO), 格ナシ), 【極端】, 左方移動 (細羽 2020: 314)

*Kahit mga bata p<in>atulong doon sa trabaho.*

even PL child <PF.PFV>CAUS-help there.LOC LOC work

「小さい子供まで, その仕事の手伝いをさせられた。」

なお今回の調査では資料の都合上適わなかったが, イントネーションなどの韻律的標示についても検討する余地がある。韻律は情報構造の標示に関わっていることが指摘されている (Titov 2019: 1)。

**略号一覧 (Leipzig Glossing Rules にないもの)** : AF actor focus / B set B (与格, 所有) 人称接尾辞 / C set C (絶対格) 人称接尾辞 / CMP completive / CONT 継続 / ILL 入格 / INAN 無生 / INE 内格 / ITER iterative / MED medial / PF patient focus / PN 代名詞 / PP 過去分詞 / PTCL 小詞

**参考文献:** 浅岡健志朗 (2017) 「情報標示の諸要素 —チェコ語—」『語学研究所論集』22: 71–74. / Bresnan, Joan and Sam A. Mchombo (1987) Topic, Pronoun, and Agreement in Chicheŵa. *Language*. 63: 741–782. / Dryer, Matthew S. (2013a) Order of Object and Verb. In: Dryer, Matthew S. & Haspelmath, Martin (eds.) *WALS Online*. (v2020.3). [2023-10-02]. / Dryer, Matthew S. (2013b) Order of Subject, Object and Verb. In: Dryer, Matthew S. & Haspelmath, Martin (eds.) *WALS Online*. (v2020.3). [2023-10-02]. / 細羽洸希 (2020) 「フィリピン語の情報標示の諸要素」『語学研究所論集』25: 313–317. / 井戸美里 (2021) 「日本語のとりたて表現と言語類型論」窪菌晴夫・野田尚史・ブラシャント パルデシ・松本曜 (編)『日本語研究と言語理論から見た言語類型論』98–124. 東京: 開拓社. / Iggesen, Oliver A. (2013) Number of Cases. In: Dryer, Matthew S. & Haspelmath, Martin (eds.) *WALS Online*. (v2020.3). [2023-10-02]. / 風間伸次郎 (2016) 「[テーマ企画: 特集 情報構造と名詞述語文] まえがき」『語学研究所論集』21: 17–44. / 風間伸次郎 (2017) 「[テーマ企画: 特集 情報標示の諸要素] まえがき」『語学研究所論集』22: 25–45. / 喜多田敏嵩・堀江舞袖 (2022) 「スペイン語の情報標示の諸要素」『語学研究所論集』27: 135–144. / Lesage, Jakob et al. (2023) Grambank v1.0. [2023-10-08]. / 三宅登之 (2017) 「中国語」『語学研究所論集』22: 133–138. / 長渡陽一 (2017) 「エジプトアラビア語の情報標示の諸要素」『語学研究所論集』22: 115–119. / 成田節 (2018) 「ドイツ語における情報標示の諸要素」『語学研究所論集』23: 279–288. / 野田尚史 (2015) 「世界の言語研究に貢献できる日本語文法研究とその可能性 —「する」言語と「なる」言語, 高コンテキスト言語と低コンテキスト言語の再検討を中心に—」益岡隆志 (編)『日本語研究とその可能性』106–132. 東京: 開拓社. / 野田尚史 (編) (2019a) 『日本語と世界の言語のとりたて表現』東京: くろしお出版. / 野田尚史 (2019b) 「とりたて表現の対照研究の方法」野田尚史 (編)『日本語と世界の言語のとりたて表現』3–20. 東京: くろしお出版. / 坂田晴奈 (2017) 「フィンランド語における情報標示の諸要素」『語学研究所論集』22: 93–103. / Titov, Elena (2019) Morphosyntactic encoding of information structure in Akan. *Glossa: a journal of general linguistics*. 4(1) Art. 27: 1–36. / Titov, Elena (2020) Optionality of Movement. *Syntax*. 23(4): 347–374. / 内原洋人・Oscar Cornelio Tiburcio (2022) 「語学研究所論集 特集: トラパネク (メパー) 語」『語学研究所論集』27: 825–903. / 上田広美 (2019) 「言語データ「情報標示の諸要素」—クメール語—」『語学研究所論集』24: 247–251. / Van Valin, Robert D., and Randy J. LaPolla (1997) *Syntax: Structure, Meaning and Function*. Cambridge: Cambridge University Press. / Wahlström, Max (2015) *The Loss of Case Inflection in Bulgarian and Macedonian*. Helsinki: Department of Languages, University of Helsinki. / 趙天鍼 (2022) 「漢語諸暨方言: 特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定, 形容詞と連体修飾複文」」『語学研究所論集』27: 407–469.